



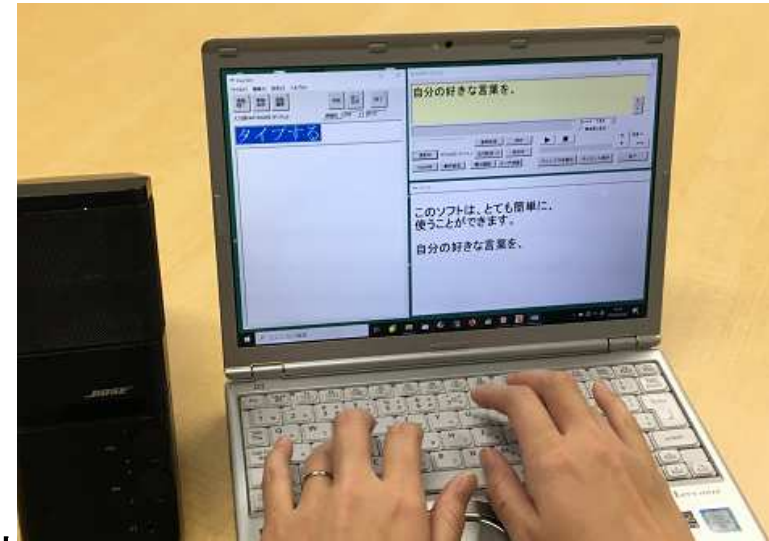
自分の声を再現するソフトウェア 「ボイスター」と、その利用事例のご紹介



自分の声ソフトウェア ボイスター

- 「自分の声ソフトウェア」とは...

- キーボードなどから入力した
自由な文字列を読み上げる
音声合成ソフトウェアです。
- ほかの誰でもない ご自身の声
を想起させる合成音生成にこだわり、
「その人らしさ」を声を介して伝えます。
- 日本語を話せる方であれば、
誰の声でも、お作りすることができます。



あなたの声を残します

外科的手術はもちろん、特別な準備は必要ありません。

静かな環境で、半日程度、声を録音させてください

- 「その人らしさ」の再現とは...

- 声質だけでなく、口調や雰囲気まで再現 ... 「アイデンティティ」の維持
- 声を失われる喉頭摘出やALSの方へ提供 ... 「第二の自分の声」として

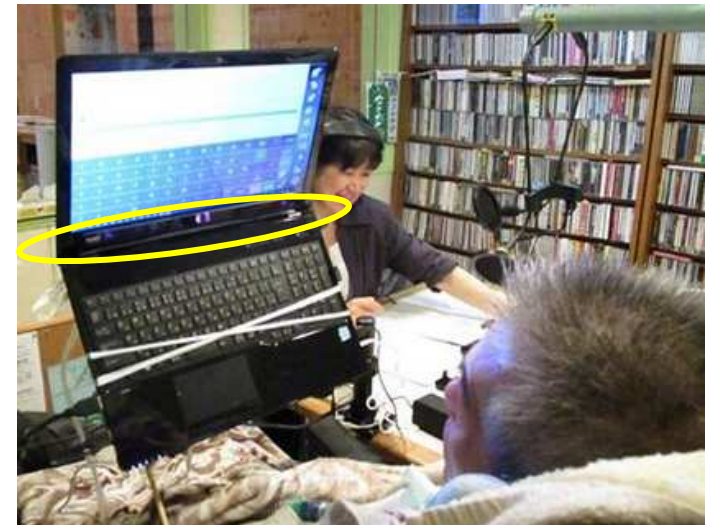
キーボード以外の利用形態



フリック入力
(スマートフォン
: モニタ版)



手書き入力
(タブレット版)



視線入力
(意思伝達装置等
との連携)

2. 先進事例のご紹介

気管切開したALS患者によるラジオ番組 『ALSのたわごと』のご紹介

- 札幌市西区 三角山放送局
 - 理念「いっしょに、ね」。 広く市民が参加。
- ラジオパーソナリティ 米沢和也氏
 - ALS患者。『ALSのたわごと』担当
 - 病気の進行に伴う人工呼吸器装着。⇒気管切開により声を失う。
 - 手術前に音声収録、ボイスターを作成
 - 手術後、視線入力ソフトと組合せて
 - 日常生活での会話利用 + 自らのラジオ番組を継続。
- アシスタント 佐藤美由紀氏
 - iCareほっかいどう 理事・相談員
 - 番組内、あ・うんの呼吸で、米沢氏をサポート

放送の様子

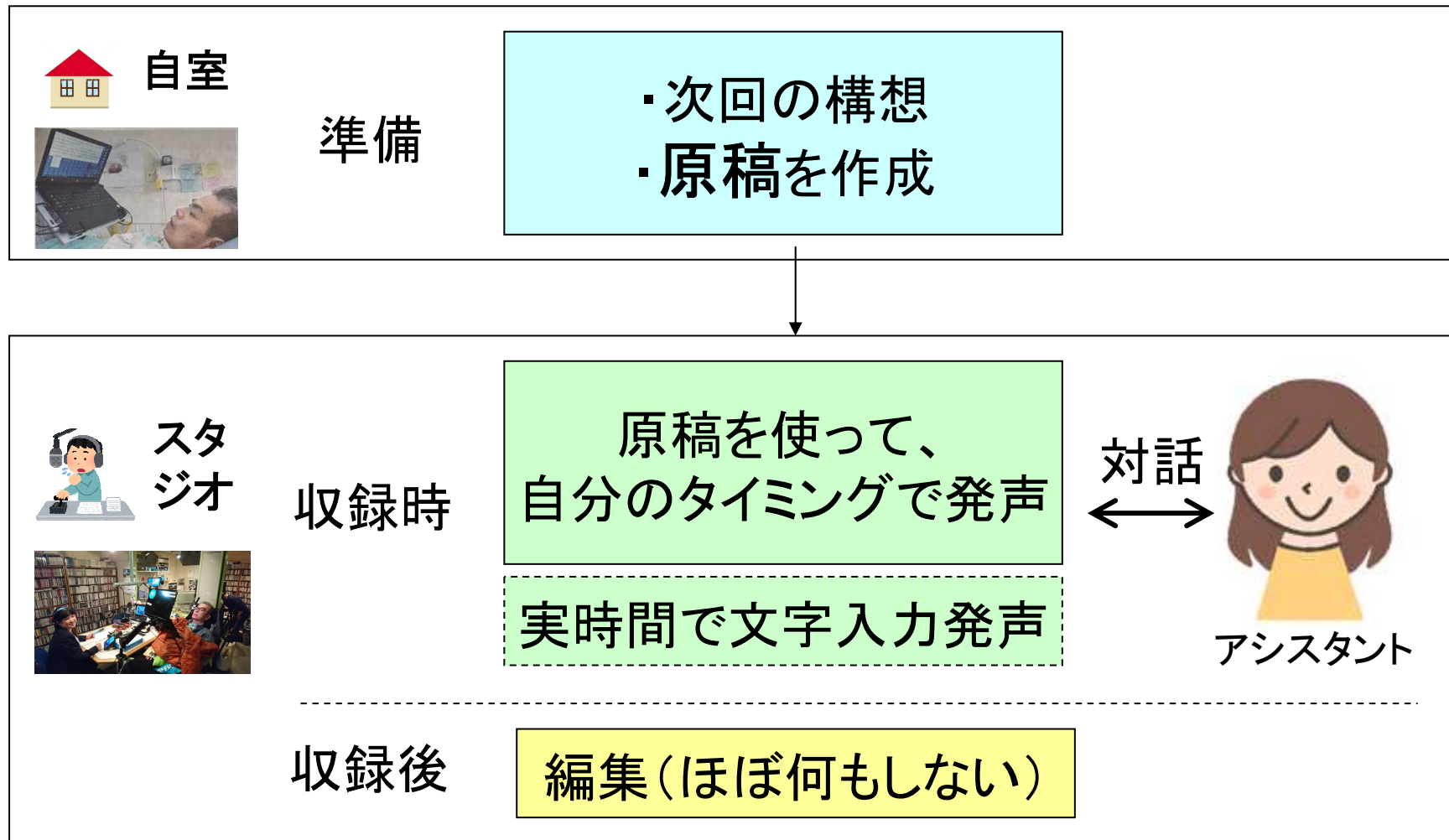


三角山放送局で番組収録中のひとコマ(2019年5月)

・サンプル1 (オープニングの様子)

・サンプル2 (進行中。 ALSに関する話題)

番組制作の流れ



再び、放送の様子(動画)

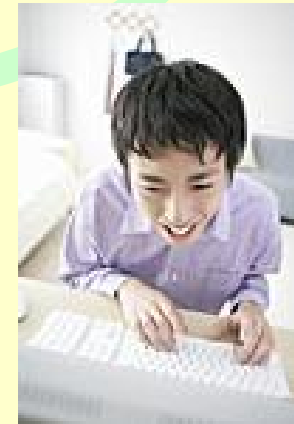


- サンプル3(エンディング:動画)

「あの声」でなければならない、そんな思いに応えます



自分の声ソフトウェア
Voice
ボイスター



HTS 株式会社
ヒューマンテクノシステム東京